

特集

「社会変革」をキャリアにする

—『N女の研究』から

ノンフィクション作家

中村安希さん

りぶる

さつぽろ

冬

46

2017 Vol.

『社会変革』をキャリアにする

『N女の研究』から

平成29年8月31日にノンフィクション作家の中村安希さんをお招きし、講演会&パネルディスカッションを実施しました。

その模様の一部をご紹介します！

私がN女に興味を持ったのは、数年前から自分の周りにN女が増えてきたことがきっかけです。アメリカのシリコンバレーで20代から高い報酬を得て働いていた大学時代の親友が、帰国していきなり東北の復興支援をするNPOに就職したいと言うのです。ほかにも一流企業から脱サラしてNPOで働き出す人が自分の周りに増えてきて、一体どうなっているのかと思ったのです。

東京にある非営利セクターへの転職などをサポートするNPO法人「NPOサポートセンター」で話を聞いてみると、近年非営利組織は、慈善団体であったものから事業団体へ、自己犠牲の伴う奉仕の場ではなく職場へと変わりつつあるということ、つまりソーシャルセクターそのものが変化してきているということでした。これまでボランティアで社会活動をしていたものをもっと職業的に捉えるようになり、ソーシャルセクターで働くことが報酬や対価を得るための「仕事」になってきているというのです。

そこで、NPOで働いている人たち、中でも女性の働き方や生き方などに焦点を当てて、「N女の研究」を雑誌で1年半程連載しました。

連載で取りあげたのは、大企業に就職できる学歴や職歴がありながらNPOなどのソーシャルセクターで働いていた四大卒の26歳〜39歳の11名の女性です。大企業に就職できる実力があるのに取って置かない「ちょっと変わっている」「若い世代の彼女たちのメンタリティーがどうなっているのか、世間も知りたい」と思った当時30代半ばだった自分にとって興味深い取材対象でした。



離職率の高いN女

取材した11名は独身者が4名、既婚で子どもがいない方が5名、既婚子育て中の方が2名でしたが、連載開始から1年半の間に5名が離職しました。内訳は独身者が3名、既婚で子どもがいない方が2名です。

独身者の主な離職理由は給与など待遇面の問題でした。内閣府の調査(平成25年度)では常勤有給職員の年間人件費・年収の中央値は222万円ですが、これでは例えば都内でひとり暮らしをしようと思っただけでは足りないでしょう。なかには400万〜500万円の年収を得られるNPOもありますが、全体的に給与水準は低い状況です。また休暇を取りたくてもスタッフが少ないためなかなか休むことができないという声もありました。常勤有給スタッフが10名以上いる団体は全体の10%程度に過ぎず、数人で活動している団体が圧倒的に多いのです。小規模だと組織としての待遇面の制度が整わないことにつながります。身近にロールモデルが少なく、自分の将来のキャリアを描きにくいというところで辞めた方もいました。

ソーシャルセクターの仕事が、やりがいのある仕事だから低賃金でもいいという考えはおかしいと思います。例えば、NPO法人難民支援協会はスタッフの多くがバイリンガルやマルチリンガルで、法的手続や国際問題に関しても深い知識があり、とても高度な業務をこなしています。これを弁護士や国連、外務省などが担うことになれば、おそらく彼女たちの3〜5倍の報酬が必要でしょう。同じ仕事なのにどこに属しているかによって報酬が大きく違うのでは不満の種になります。待遇面の問題は社会全体でもう少し考えて改善の方向に向かってほしいと思います。

既婚で子どもがいない方の離職理由は、夫の海外転勤や妊娠・出産と



『N女』とは

ソーシャルセクターで働く女性のこと。利潤の最大化を目指さず社会に貢献するための活動であれば、営利・非営利を問わずソーシャルセクターに属すると考え、NPO以外にも営利の社会的企業で働く女性も含む。

いったライフイベントの影響を受けやすい女性ならではの事情でした。また現在もNPOで働いている残り6名のうち3名が離職予備軍です。今は夫の収入があるのでNPOで働けるが、夫の事情が変わったら転職を考えなければならぬ状況です。NPOで働けるかどうかは夫「パートナー次第」ということも現実です。

では、そもそも離職は悪いことなのでしょうか。

自分の意志で柔軟に 生き方を選択するN女

NPOで働きながら産休を取得後に復職されたのち、再び第2子の産休に入り、次は一般企業に転職したという方がいました。NPOから一般企業、しかも大企業に戻ったケースです。結婚、出産などのライフイベントの影響を受けてキャリアが中断してしまうことはネガティブに捉えられがちですが、この方はいろいろな意味で可能性が広がり、こういう人生選択もあったと気づいたといいます。

女性は継続的な就労に対するこだわりが少なく、新卒で就職したときから一つの会社で一生勤めあげようと思っていなかったので未練は全然ないと答える方が少なくありません。終身雇用を当てにせず一生一つのところで働かなくてもいいと柔軟に考えることは、今の日本の社会に必要なと思います。

変化に対する抵抗が少ないと、N女の皆さんがおっしゃいます。一つの社会課題に取り組みとしても、今はNPO業界にいます。生誕ここでやり続けたいと思っている人は皆無で、たまたま今はNPOがフィットしているが、また企業に戻るかもしれないし独立して何かやるかもしれないと。変化に対していろいろな選択肢を持っている、柔軟であるというのは女性ならではの強みと言えるでしょう。鍵を握るのは柔軟性です。



N女はこんな人たち

NPOは基本的に小人数で自分たちでつくりあげていく組織なの

で、大手企業のように新人研修があって少しづつ仕事を覚えて、といったことはほぼありません。ですからN女に向いている人は、まずは主体的にものを考え、ビビらずに自分の考えを口に出して動いていける人です。

その次に、マルチタスクをこなせる人。家庭と仕事を両立する必要性に迫られてきた人は、経験から自然にできるようになっている方もいるでしょう。またNPOは一人がいろいろなことをこなしながら、クライアントや支援対象者など多くの人と関わる職場なので、コミュニケーションスキルが高くてよく気がつく人も向いています。

それから、「自分が変えてやろう」ではなく、「自分を変えていこう」とする人です。ソーシャルセクターで働いている方は、社会をよくしたいという思いを持っている方が多いと思いますが、社会をよくしたい、すなわち、自分があなたたちをよくしてやろうという気持ちで始めると失敗してしまうことがあります。

いろいろな社会課題や問題にぶつかったときに、相手を変えるのではなく、自分が変わりながら挑戦していける人が向いていると思います。

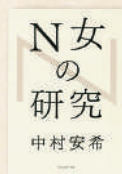
そして一番重要なのは、柔軟な考え方ができることです。それぞれ生き方があって考え方が違うので、自分のプライオリティ（優先順位）に合わせて人生を選択するといっています。

このようにN女たちは、総じて、自分の頭で考えて行動できる女性たちです。誰かに決めてもらうとか、みんながこうしているからではなく、今、自分の人生のこのステージで一番やりたいこと、それから、子育てや介護など一人ひとりさまざまな事情がありますが、その都度自分の状況に合わせて考えて、自分のために行動していける、そういう女性たちだと思います。

ノンフィクション作家

中村 安希さん

1979年京都府生まれ、三重県育ち。カリフォルニア大学アーバイン校芸術学部演劇科卒。2009年、47カ国を巡る旅をもとに書いた『インバラの朝』で開高健ノンフィクション賞を受賞。他の著書に、『Beフラット』『食べる。』『愛と憎しみの豚』『リオとタケル』、最新刊に『N女の研究』がある。



パネルディスカッション

北海道で、“社会変革”を キャリアにする

中村安希さんの講演に引き続き行われた、北海道で活動している
「N女」のみなさんによるパネルディスカッションの様子をお伝えします！

ファシリテーター

ノンフィクション作家

中村 安希 さん

中村 女性がソーシャルセクターで働くメリットや意義についてどう考えますか？

杉山 既存の考え方に捉われないソーシャルセクターでこそ、女性の得意な部分を生かせると思います。例えば、女性は共感力が高く課題に気づきやすいため、コミュニケーションの中で互いのいいところを生かしながら横のネットワークを作ることができそうです。縦割りのところを横に繋げて新しい力を生める女性の力を発揮できる場の一つが、ソーシャルセクターになることを期待しています。

下川原 非営利セクターは組織が小さいので何でもやらなければなりません。ライブイベントに働き方を左右されやすい女性でも、自分で考えて働きやすい環境を作れる柔軟性のある組織だと捉えることができます。女性が自分を生かせる分野で使命感を持つてイキイキと働いていると、社会全体としての生産力が高まっていくとも感じています。

佐藤 雇用側からすると、女性の方がいいということはあるかもしれませんが。配偶者にある程度の収入がある既婚女性は、NPOの待遇に不満が少ないと聞いたことがあります。

まちづくりを行っている今活動している業界では、職場やイベントに子どもを連れてくるスタッフが多く、それが許される雰囲気です。また、女性に限らず、ソーシャルセクターで働くことはハードルが高いことではなく、思いに共感できれば互いに協力し合え、ときには行政とも協働して、緩やかにつながる働き方ができる環境だと思っています。

病気になっても自分らしく生きられる社会をつくろう、という理念のもと活動しています。病気になったことがスキルとなり、病に関しての先輩になるという考えのもと、病気の経験を学んでいくような場をつくっています。旭川、札幌、東京に支部があり約60名のメンバーがいます。私自身本業は医者で、メンバーそれぞれが本業でも家庭でもないもうひとつの場所、サードプレイスという位置付けで活動しています。お互いに学び合いながらお金ではない報酬をもらうための場として、非営利の活動をしています。

一般社団法人
CAN net代表 杉山 絢子 さん

1977年旭川生まれ、旭川育ち。自身や家族の病気経験や医師として働く中で課題を感じ、2013年病気になっても自分らしく生きられる社会をつくる「一般社団法人 CAN net」を立ち上げる。パレルキャリアとしてNPOの活動を行う。

<http://can-net.jp/>



中村 女性は結婚や出産などライフイベントをきっかけに仕事を辞める方が多く、労働力として社会で活用できる優秀な方がたくさんいるのに、今の一般企業の就労環境では働けないと諦めています。そういう女性たちの力を生かしていけば、NPOは社会変革を起こしていけると思います。

またNPOは女性より男性の結婚退職が圧倒的に多いと言われています。NPOの給与水準が低いいため、家計を支える場合が多い男性は、結婚を機に一般企業に転職する必要に迫られるのです。性別に関わらず、根本的にソーシャルセクターの給与水



準の引き上げを社会全体で考えることも必要です。

中村 それぞれの具体的な働き方についてお聞きします。杉山さんは多忙な医師でありながら、^{*}パラレルキャリアとして精力的にソーシャルセクターの活動をされていますね。

※現在の仕事以外の仕事を持つことや、非営利活動に参加すること。
（ピーター・ドラッカー著「明日を支配するもの」より）

杉山 パラレルキャリアで活動するには、自分の使える時間をきちんと把握して自分で仕事のマネジメントをすることです。医者としてのキャリアも積んできた現在は月

小中高生世代の子どもたちを対象に、将来の仕事や生き方を考えるためのプログラムやワークショップを作成し実施する活動をしています。本部は神奈川県川崎市にあり、大学卒業と同時に専従職員として丸5年働きました。今はUターンしてきて、今年度からは北海道支部（準備会）を立ち上げ活動を始めています。自治体職員として働いているので、NPOの活動は休日や平日の夜、また有給休暇を使うなどして活動しています。



認定NPO法人
キーパーソン21理事

下川原 彩 さん <http://www.keyperson21.org/>

1987年旭川生まれ。大学を卒業後、新卒で小中高生へのキャリア教育を行う認定NPO法人キーパーソン21事務局スタッフとして5年間勤務。現在は、キーパーソン21理事。北海道支部（準備会）活動も行う。



150時間くらい非営利の活動をしています。ただ、時間を費やすことが大事なのではなく、それぞれの持っている価値やスキルを活かす多様な関わり方をメンバーで認めあって活動することが大切です。

中村 下川原さんは新卒でNPOに就職した後、北海道にUターンし、今は自治体の職員もされているのですね。

下川原 NPOで専従で仕事をしている時は、行政から委託された業務は行政の判断で予算から期間まであらゆる事が決まっております。課題を解決しようと取り組んでも突然終わることもありました。北海道に戻って、団体の活動を故郷である北海道で広げていきたいと考えた時に、この経験を生かして行政側の立場で働く選択肢もあるかなと思ったのです。

中村 NPOにいた方が行政で働くようになったりその逆だったり、あるいは民間企業で働いたりとセクター間を移動することは、どちらにとってもメリットがあると思います。

中村 サードブレイス型の組織マネジメントはどこも苦労していると思いますが、代表者である佐藤さんはどういうことに気をつけていますか。

佐藤 雇用契約や業務契約などはきちんとするよう心掛けています。外部に業務を依頼するときには口頭で約束することもありますが基本無償ではお願ひしません。この業界は知識や経験、労力に対して明確な対価を求めづらいところがありますが、でき

夕張の中心部の清水沢地区で、炭鉱遺産を活用したまちづくりの活動をしています。夕張は昔は炭鉱で栄え、日本で最大級の炭鉱都市として非常に知名度のあった都市です。大学を卒業して社会人を4年経験したあとに入った大学院で、夕張の炭鉱遺産を活用した観光まちづくりをテーマにした論文を書いたことをきっかけに、地域で炭鉱遺産を活用して、内外の人が出会いまちをつくっていく機会を構想して実行する、という活動をしています。



一般社団法人
清水沢プロジェクト代表 **佐藤 真奈美** さん <http://www.shimizusawa.com/>

1979年生まれ。大分県別府温泉出身。京都の大学を卒業後就職で札幌へ。大学院で夕張をフィールドに研究し、以来NPOなどで炭鉱遺産を活用したまちづくりに携わる。2016年に一般社団法人清水沢プロジェクトを設立。



中村 ソーシャルセクターで働くことに迷う方もいると思いますが、まずはチャレンジしてみてください。もし入ってみて合わなくても、今日のお話にもあるとおり団体はさまざまあるので移ることもできますし一般企業に戻ることもできます。思い切って「一歩踏み出してみてください。あとはなるようになれ！」くらいの気持ちで、動いてみてはいかがでしょうかと思います。

札幌N女研究

札幌市内・近郊のNPOや非営利セクターで働く女性の声を紹介します。

QUESTION

- 1 ソーシャルセクターで働こうと思った理由は何ですか？
- 2 一般企業で働くこととソーシャルセクターで働くことの一歩の違いは何だと思いますか？

1 大学時代にNPO活動実践者の講演を聞き、「NPOではやりたいことや好きなことを仕事にできるのだ」と衝撃を受けました。その後、札幌のNPOでのインターンなどを通して、NPOの設立から解散までを支援する中間支援の存在を知り、活動をはじめました。

2 多様な働き方ができるのが魅力の一つだと思います。現在3歳の子どもがおりますが、0歳のころから子どもを連れて出勤し、事務所の一部にキッズスペースをつくって活動していました。現在はパートナーの転勤により関東在住で、東京の中間支援組織に月の半分程度勤務し、月一回札幌から、遠隔で北海道の活動を続けています。



中西 希恵さん

【年代】30代前半
【所属団体名】特定非営利活動法人北海道NPOサポートセンター
【仕事の内容】NPOの会計サポートを主として担当。団体の会計事務フローの整備、会計ソフトの導入、日々の会計実務・決算のサポートなど



1 自分のやりたいことを実現させる上で一般企業とソーシャルセクターの違いはありませんでした。前職も現職も知人がソーシャルセクターの求人情報を知らせてくれたことがきっかけで応募し、採用いただきました。その求人が企業だったら、そこに挑戦していたかもしれません。

2 アプローチの仕方に違いはありますが、どちらも「私たちの暮らしや社会をよくしたい」という想いで日々仕事に取り組んでいると思います。もし違いがあるとすれば、お給料の面でソーシャルセクターが不安定なことではないでしょうか。近い将来、「ソーシャルセクターでも暮らせる」となる日がくることを信じています。

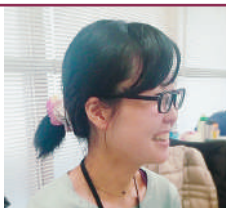


大崎 美佳さん

【年代】20代後半
【所属団体名】環境省北海道環境パートナーシップオフィス(略称「EPO北海道」)
運営団体:公益財団法人北海道環境財団
【仕事の内容】環境に関する情報収集・発信、相談窓口運営、環境の課題解決に向けてセクターや分野を超えたパートナーシップづくりの企画など

1 短大卒業後福岡市におり、そこで携った市民活動から人の心を学びたいと思い、帰省後、精神保健福祉士の仕事を知り、資格を取得しました。最初は待遇に惹かれて病院で働きたいと思いましたが、自分の原点である「自殺をなくしたい」という思いは、病院でもNPOでも変わらず叶えられると思い入職しました。

2 良くも悪くも個人で勤務時間の管理を任されています。事業所の開所時間内で働いていますが、対人援助の仕事なので、いつどんなことが起こるか予測できない部分もあります。反対に、夜に会議がある時は遅く出勤し、会議が予定より早く終わればそのまま帰宅します。決まった時間に帰ることは難しいですが、柔軟に時間を使うことができます。

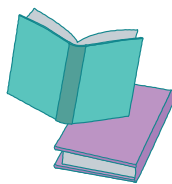


本間 幸乃さん

【年代】30代前半
【所属団体名】特定非営利活動法人たねっと
【仕事の内容】障がいの有無に関わらず住みやすい地域をつくるためのネットワークづくりや情報発信、相談業務

1 一般企業も就職の選択肢には入っていましたが、学生時代にブックシェアリングで活動したことが自分にとって大きな学びとなり、その活動をより多くの方に知っていただくと同時に、自分自身も活動したいとの思いで現在の団体に就職しました。

2 当団体は2名の常勤職員で運営しており、イベントなどで人手がいる際は出勤する必要がありませんが、それ以外は自分の仕事状況に応じて自由に休日を申請することができます。出勤時間についても同様なので、自分の仕事の状況を見ながら調整しています。



竹次 奈映さん

【年代】20代前半
【所属団体名】一般社団法人北海道ブックシェアリング
【仕事の内容】読み終えた本の再活用や「無書店自治体を走る本屋さん」などのイベント企画、運営

GUIDE BOOK



あなたのキャリアのつくり方

NPOを手がかりに

浦坂純子 著

820 円(税別) / 筑摩書房

今まで一般的だった「一般企業にフルタイムで勤務し、終身雇用で定年まで働き続ける」働き方とは違う、「NPOで働く」という選択肢から自分らしいキャリアデザインを探る一冊。多様化するワークスタイルを「若者」「女性」「男性」「高齢者」といったさまざまな視点から考えます。

NON-FICTION



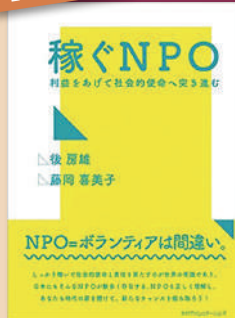
リオとタケル

中村安希 著

1,500 円(税別) / 集英社インターナショナル

アメリカ演劇界でデザイナーとして活躍した男性カップルの実話。大学の恩師でもある彼らに魅了された著者は、本人たちはもちろん、彼らと深く関わってきた周囲の人たちにも取材を重ね、2人の人間像と歩んできた道のり、他者との関わりを丁寧に描き出します。アメリカと日本それぞれの社会での、セクシュアリティと愛情を考えさせられる一冊です。

BUSINESS



稼ぐNPO

利益をあげて社会的使命へ突き進む

後房雄、藤岡喜美子 著

1,500 円(税別) / カナリアコミュニケーションズ

「NPO=ボランティアは間違い。」と力強く帯に書かれているとおり、ソーシャルセクターで「稼ぐ」ためのヒントを提供しています。「事業型NPO」を目指す人たちにとって身近なモデルとなる11の事例を紹介しており、「稼ぐNPO」のイメージを持てるようになる一冊です。

SOCIOLOGY



時間と場所を選ばない パラレルキャリアを始めよう!

石山恒貴 著

1,500 円(税別) / ダイヤモンド社

2枚目の名刺を持ち、本業と社会活動の両方から学びを得られるパラレルキャリアは特別な人ものではありません。思い立てばすぐ始めることができます。パラレルキャリアを実践している団体、個人の実例を紹介する一冊です。

りぶるのススメ

このページではセンター職員がおススメする本・映像作品をご紹介します。
あなたのお気に入りになれたら嬉しいです。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか?

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では男女共同参画を含めた4分野の資料を閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。

🌟マークが付いているものは情報センターで借りることができますので、ぜひ遊びに来て下さいね。

情報センターへのお問い合わせは

011-728-1223

(開館時間 9:00~20:00)
(貸出時間 9:00~19:45)

札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは相談窓口を開設しています。

相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。

1人で悩まずに、新たな一歩を踏み出すきっかけとしてお話ししてみませんか。

	女性のための 総合相談	女性のための仕事の悩み相談	女性のための 法律相談
日 時	月〇〇木〇土 10:00~12:00 〇火〇〇〇〇 15:00~17:00 ※ただし第2火のみ 18:00~20:00	〇〇水〇〇〇 18:00~20:00	〇〇〇〇金〇 ※ただし第1・3・4 第3 金 13:00~15:00 第1・4 金 18:00~20:00
相談員	カウンセラーなど(女性)	産業カウンセラー(女性)	弁護士(女性)
相談方法	面談/電話(011-728-1225)	面談/電話(011-728-1227)	面談
相談内容	家族のこと、夫婦のこと、恋愛、対人関係など女性の総合的な相談に相談員が面談または電話で対応します。	職場における対人関係、働き方、セクシュアル・ハラスメントなど、女性の仕事についての相談に産業カウンセラーが面談または電話で対応します。	離婚や相続など、法的な見解が必要な女性の相談に弁護士が対応します。完全予約制なので事前にお電話でご予約ください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">予約受付電話：011-728-1255</div>

編集後記

従来の「NPO」のイメージからは、まだまだ「慈善団体」「ボランティア」「自己犠牲」といったことを連想する方が少なくないかもしれません。しかし最近では民間企業から転職したり、新卒でソーシャルセクターに就職すること、キャリア選択のひとつになってきており、そのことをテーマにして講演会を実施しました。講演会には「現在は別の仕事をしているけれど、ソーシャルセクターで働くことに興味がある」という若い世代の女性が思いのほか多かったのが印象的でした。

中村安希さんやパネリストのみなさんとお話しされたように、ソーシャルセクターが札幌の女性たちにとって、自分らしいキャリアを培える場のひとつになっていくことを期待します。

小室淑恵さん講演会

「これからの企業、社会が求める女性リーダーの必要性」を

開催しました。

今年度初めて、企業で働く女性を対象に、5月にわたる連続講座「女性リーダー養成研修」を実施しています。10月23日(月)の開講講演会には、日本の第一線で活躍されている(株)ワーク・ライフバランス代表の小室淑恵さんをお招きし、人口構造や社会環境の変化、経済発展などの側面から女性リーダーの必要性についてお話しいただきました。

講演後には一人ずつ研修の目標を設定していただき、これから一緒に学んでいくグループのメンバーと目標を共有しました。



発行月：平成29年12月

発行：札幌市男女共同参画センター

【指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】

facebook： <https://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904>

所在地：〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

電話：(011)728-1255 FAX：(011)728-1229

ホームページ：<http://www.danjo.sl-plaza.jp>



本誌のタイトル「りぶる」は、英語(ripple)で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。